

大転換期における北海道開発の諸課題

1 我が国を巡る環境変化と北海道開発

(1) 我が国を巡る環境変化と国家的課題～大転換期の国・地方

我が国を巡る環境の変化
解決すべき課題と目指すべき姿

(2) 北海道の特性・資源

圧倒的に豊かな自然環境、土地・水等の豊かな資源、開放性、他方で積雪寒冷な気候

(3) 期待される北海道の姿

国家的課題に貢献し、自立する地域経済社会を形成
・内外の人々と築く実力と価値創造力ある北海道
・グローバルな視点に立った「新たな北海道イニシアティブ」の発揮 - 21世紀の地域活性化の先駆的モデルの形成

2 北海道開発の取組むべき課題

(1) 北海道開発の基本的視点

- ・時代の潮流変化への対応
- ・地方分権の流れと自立する地域経済社会の形成
- ・国民の安全と安心の確保

- (2) 時代の潮流変化と諸課題への対応
- (3) 自立する地域経済社会の形成
- (4) 安全・安心な国土づくり

第6期計画の点検について

1 第6期計画の構成と点検の手順

- (1) 第6期計画の構成
- (2) 点検の手順

2 第6期計画の評価

- (1) 計画の基本理念・主要施策の進捗状況と評価
- (2) 施策の推進体制の評価

(3) 第6期計画の総括的評価

- ・計画期間中の北海道経済は、近年回復の動きが見られるものの、全体としては厳しい状況
- ・各種施策の推進により食料基地としての役割強化や国際観光の進展等、一定の成果
- ・新たな成長期待産業の育成等のため、人材の育成、科学技術の研究開発の促進等により、競争力の強化等が必要
- ・ハード・ソフト施策の連携等による効率的な投資を行うことが必要
- ・地域、特に民の活力の発現を強く促すため、総合調整機能を一層発揮することが必要
- ・時代の潮流の変化へ対応し、将来予測、民・地域との連携をも踏まえた計画のビジョン・主要施策の見直し、戦略的に対応していくことが必要
より一層民・地域の力を引き出し地域を活性化する道筋とそのための基盤整備の道筋を共通の戦略として描くことが重要

新たな計画の在り方と北海道開発の方向性

1 北海道開発の意義と新たな計画の在り方

(1) 北海道開発の意義

内外の環境変化に対応し、北海道の優れた特性・資源を活かしながら、我が国が直面する国家的課題の解決と、地域の自立的発展を図るため、民や地域の主体的な活動を支援し、また、これらの活動を支える経済社会基盤の整備をすること

(2) 新たな計画の在り方

- ・国家的課題の解決に貢献するとともに地域の自立的発展を図るための明確なビジョンを広く内外に示すもの
 - ・民や地域の主体的な取組みを支援するもの
 - ・国と地域が連携・協働する上で強い求心力となるもの
- 新たな計画の役割は、他の地域とは異なる特性・魅力を有する北海道を、いかに開発・利用・保全し、国への貢献と地域の自立的かつ持続的な発展を図るかについて、国の視点と地域の視点の整合的なビジョンを提示し、国、地域の連携と協働の中でその実現を期していくこと

2 北海道開発の取組みの方向性 (P)

- ・時代の潮流の変化を踏まえた総合的な取組み
- ・自立する地域経済社会の形成に向けた総合的な取組み
- ・安全・安心な国土づくりに向けた総合的な取組み

3 北海道開発の進め方 (P)

- ・ハンディを強みに替えるポジティブな取組み
- ・投資の重点化・高度化と効率性・透明性の追求
- ・多様な主体が共に進める北海道開発のため、国民意見の反映と合意形成及び連携・協働による施策の効果的な実現
- ・道内各地域の多様性のある姿の反映

1 我が国を巡る環境変化と北海道開発

(1) 我が国を巡る環境変化と国家的課題～大転換期の国・地方

我が国を巡る環境の変化

- ・グローバル化
- ・人口減少・少子高齢化
- ・自然環境、エネルギー問題
- ・地方分権の流れ

解決すべき課題と目指すべき姿

- ・成熟型社会に対応した国土づくり
(持続可能な安定成長、安全・安心の確保、社会資本ストックの有効活用)
- ・人口減少社会における生産性の向上
- ・グローバル化に対応する地域の競争力の醸成
- ・経済と環境が両立する持続可能な経済社会の形成
- ・自立する主体的な地域社会の形成

(2) 北海道の特性・資源

北海道の特性・資源

- 圧倒的に豊かな自然環境、土地・水等の豊かな資源、社会的開放性
- ・開拓、開発の歴史の中で培われたフロンティア精神と社会的開放性
- ・広大で平らな土地・空間・水・森林等の資源
- ・豊かな自然環境、冷涼な気候
- ・地理的に東アジア、極東ロシアと北米との結節点に位置

他方、

- ・厳しい積雪寒冷な気候
- ・広域分散型社会
- ・低密度な人口分布

(3) 期待される北海道の姿

国家的課題に貢献し、自立する地域経済社会を形成

- 内外の人々と築く実力と価値創造力ある北海道
- グローバルな視点に立った「新たな北海道イニシアティブ」の発揮
- ・21世紀の地域活性化の先駆的モデルの形成
- ・自立的で安定的な地域経済社会の実現

2 北海道開発の取組むべき課題

(1) 北海道開発の基本的視点

- ・時代の潮流変化への対応
- ・地方分権の流れと自立する地域経済社会の形成
- ・国民の安全と安心の確保

(2) 時代の潮流変化と諸課題への対応

1) 人口減少・少子高齢化への対応

- ・農山漁村地域の活性化、食料安全保障、都市と農村の連携強化と暮らしやすいコミュニティの形成

2) 自然環境、エネルギー問題への対応

- ・地球環境問題が顕在化する中で、持続可能な循環型社会、豊富な自然エネルギー源、環境対応の世界モデル、自然に優しい基盤整備

3) グローバル化への対応

- ・グローバル対応型地域経済モデル、経営力ある農水産業の形成、観光等交流人口・投資の拡大、内外シームレスなネットワークづくり

(3) 自立する地域経済社会の形成

1) 農水産業等食に関わる産業の高付加価値化、競争力強化

2) 産業としての観光

3) 成長期待産業とものづくり

4) モビリティの確保・向上

5) 人材の育成・安定的供給

6) 地域金融機能の円滑な発揮

7) 快適で暮らしやすいコミュニティの形成

(4) 安全・安心な国土づくり

- ・国民の安全・安心の確保は国の責務
- ・自然災害等に強い国土づくり
- ・交通の安全確保、急増する犯罪等に対する暮らしの安全・安心の確保
- ・自助・公助・共助が行われる活力あるコミュニティの形成
- ・積雪寒冷地における交通、居住、雪処理等の対策に加え、豪雪時に地震が発生するなど複合的な災害に対する安全性の確保
- ・大規模災害発生時のバックアップ機能など、北海道の貢献策について検討

第6期計画の点検について

1 第6期計画の構成と点検の手順

(1) 第6期計画の構成

- 基本理念と目標、主要施策
- ・基本理念1 国の内外に開かれ自立する北海道の実現
 - 目標1 地球規模に視点を置いた食料基地の実現や成長期待産業の育成
 - 目標2 北の国際交流圏の形成
- ・基本理念2 恵まれた環境や資源を誇りを持って次世代に引き継ぐ北海道の実現
 - 目標3 北海道の美しさ雄大さを引き継ぐ環境の保全
- ・基本理念3 多様な生活や文化を享受できる安全でゆとりある北海道の実現
 - 目標4 観光・保養など国民の多様な自己実現や交流の場の形成
 - 目標5 安全でゆとりある生活の場の実現

(2) 点検の手順

- ・計画の基本理念・主要施策の進捗状況と評価
- ・施策の推進体制

2 第6期計画の評価

(1) 計画の基本理念・主要施策の進捗状況と評価

- 1) 国の内外に開かれ自立する北海道の実現
 - ・経済の自立について域際収支の赤字額のみをもって評価するのではなく、多角的に評価することが必要
 - ・食料基地としての役割強化や国際観光が進展したものの、新たな成長期待産業の育成が課題
 - ・政府系金融機関による貸し渋り対策により金融システムが安定化
- 2) 恵まれた環境や資源を誇りを持って次世代に引き継ぐ北海道の実現
 - ・環境保全に対する意識の高まり等がみられるものの、環境保全に対するさらなる取組みや循環型社会形成の促進が課題
- 3) 多様な生活や文化を享受できる安全でゆとりある北海道の実現
 - ・交通ネットワークの整備は進展したものの、主要拠点間のネットワーク化等が課題
 - ・冬季の生活環境改善やバリアフリー化への対応が課題
 - ・防災対策は着実に進められてきたものの、頻発する自然災害等へのさらなる対策が必要

(2) 施策の推進体制の評価

- ・地方公共団体との連携に加え、地域住民の事業等への参加が増加
- ・国、地方公共団体、地域住民等が幅広く連携・協働した事業は相乗効果を発現
- ・民・地域との連携・協働の体制について一層の強化を図り、施策の総合的な効果を発揮することが必要

(3) 第6期計画の総括的評価

- ・計画期間中の北海道経済は、近年回復の動きが見られるものの、全体としては厳しい状況
- ・各種施策の推進により食料基地としての役割強化や国際観光の進展等、一定の成果
- ・新たな成長期待産業の育成等のため、人材の育成、科学技術の研究開発の促進等により、競争力の強化等が必要
- ・ハード・ソフト施策の連携等による効率的な投資を行うことが必要
- ・地域、特に民の活力の発現を強く促すため、総合調整機能を一層発揮することが必要
- ・時代の潮流の変化へ対応し、将来予測、民・地域との連携をも踏まえた計画のビジョン・主要施策の見直し、戦略的に対応していくことが必要
- ・より一層民・地域の力を引き出し地域を活性化する道筋とそのための基盤整備の道筋を共通の戦略として描くことが重要

1 北海道開発の意義と新たな計画の在り方

(1) 北海道開発の意義

北海道開発の歴史的経緯

北海道においては、時々々の国の課題・要請に応えるために、北海道の有為な資源の開発が計画的に進められてきたという、積み上げられてきた歴史的経緯があり、「開発」の意味は時代とともに進化する。

「開発」は、環境と経済の両立等価値観の調整を含むなど、国土として価値ある地域の実現という方向性のもとに、環境容量に見合った、持続的で自立的な地域の発展を促す基盤づくりを担う機能と考えられる。

北海道開発の意義

人口減少・少子高齢化、グローバル化の進展などの我が国の環境変化に対応し、北海道の優れた特性・資源を活かしながら、21世紀に我が国が直面する基本的な課題の解決と、地域の自立的発展を図るため、民や地域の主体的な活動を支援し、また、これらの活動を支える経済社会基盤を整備することと位置づけられる。

(2) 新たな計画の在り方

計画に求められるもの

- ・新たな時代の潮流のもとに北海道が内外の人々と協働し、我が国の諸課題の解決に貢献するとともに地域の自立的発展を図るための明確なビジョンを広く内外に示すもの。
- ・時代の潮流の変化を自立的発展の好機として捉えた民や地域の主体的な取組みを支援するもの。
- ・グローバルな視点に立って北海道の特性・資源を見つめ直し、国と地域が連携・協働して計画を推進する強い求心力となるもの。

・新たな計画の役割は、地理的、自然的にまた歴史的、社会的、経済的に他の地域とは異なる特性と魅力を有する北海道を、いかに開発・利用・保全し、国への貢献と地域の自立的かつ持続的な発展を図るかについて、国の視点と地域の視点の整合的なビジョンを提示することにより、国、地域の連携と協働の中でその実現を期していくこと。

2 北海道開発の取組みの方向性(P)

- ・時代の潮流の変化を踏まえた総合的な取組み
- ・自立する地域経済社会の形成に向けた総合的な取組み
- ・安全・安心な国土づくりに向けた総合的な取組み

3 北海道開発の進め方(P)

- ・ハンディを強みに替えるポジティブな取組み
- ・投資の重点化・高度化と効率性・透明性の追求
- ・多様な主体が共に進める北海道開発のため、国民意見の反映と合意形成及び連携・協働による施策の効果的な実現
- ・道内各地域の多様性のある姿の反映